

主題：神の奥義の執事

メッセージ 3

旧約の預言の成就における神の奥義としてのキリスト（2）

聖書：イザヤ9:1-5, 60:1, 5前半, 詩69:9前半, マタイ4:12-16, ヨハネ2:13-22,

ローマ12:11

V. キリストは、暗やみと死の影の中に座っている人々に現れる大いなる光です——

イザヤ9:1-5, 60:1-5前半, 19:

- A. イザヤ書第 9章1節から5節における預言は、マタイによる福音書第4章12節から16節において成就されました。その時キリストは大いなる光、すなわち、真の光、命の光（ヨハネ1:9, 4, 8:12）としてガリラヤに来て、暗やみの中を歩いている人々と（1:5, 使徒26:18, I ペテロ2:9）、死の影の中に住んでいる人々（ルカ1:78-79）を照らしました。
- B. キリストが輝くことは、わたしたちの救い、すなわち、彼がわたしたちを救うことです。わたしたちはクリスチャン生活において、わたしたちに対する彼の救う言葉が新しい光をもって開始し、何度も何度も新しい照らしと新鮮な力をもって照らすことを必要とします——ヨハネ6:63, I ヨハネ2:8。
- C. キリストが大いなる光として神の民を照らすことは、彼らを死の暗やみから救い、彼らを暗やみの束縛から解放し（イザヤ9:2, コロサイ1:13）、彼らの上にあるくびきを砕き（イザヤ9:4, 10:26-27）、彼らの敵を武具と共に滅ぼします。キリストは、輝くことによってサタンを打ち破るだけではなく、またサタンの「靴」と「衣」、すなわち、彼の武具を燃やします（9:5）。
- D. 主は輝くことによって、閉じ込められた者たちを束縛から解放します。このように束縛から解放することは、実は神の民の増殖です。キリストが輝くことは、新約のすべての信者を通して、地上においてキリストの増し加わり、拡大、成長という結果になります。新約の信者たちは刈り取りにおいて農夫であり、また分捕り者を得る戦士です——3節, II テモテ2:1-4, 6, ローマ13:12, 14。
- E. キリストの輝きによって、主は神の民の重荷のくびきを砕き、彼らの肩の上の杖を砕き、ミデアンの日になされたように、彼らをしいたげる者の棒を砕きました。ミデアンの日に、ギデオンはミデアン人に対して大勝利を得ました——イザヤ9:4, 士師7:3-7, 9-15, 22-25。
- F. 「起きよ！ 輝け！ あなたの光が来て、エホバの栄光があなたの上にすでに昇っているからだ……その時、あなたは見て光輝を放ち、あなたの心は畏れと喜びでわき上がる……エホバがあなたに永遠の光となり、あなたの神があなたの美となられる」——イザヤ60:1, 5前半, 19後半, 参照, 6:1-8。
- G. 「彼の中に命があった。この命は人の光であった。光は暗やみの中に輝いている。そして暗やみはそれに打ち勝たなかった」——ヨハネ1:4-5。
 - 1. 命は分け与えられた神であり、光は神が輝くことです。命はキリストのパー

スンであり、光はキリストの臨在です——14:6; 8:12; 17:4。

1. 光は暗やみを征服し、打ち破り、打ち勝ちます。光があるとき、すべてのものは秩序正しく、すべてのものは平和です——ゼカリヤ2:5
- H. わたしたちは心が単一である必要があります。それは、わたしたちが「ともし火の光があなたを照らす時のように、全体は光に満ちる」ためです——ルカ 1 1:33-36; 1:78-79; 箴4:18; エペソ5:8-10; 士5:31; ヨハネ8:12; IIコリント3:16, 18; 4: 6-7; 詩119:105, 130; Iヨハネ1:5, 9; マルコ2:7; 3:1; 4:2; 詩73:17; 77:13; マタイ5:1 4, 16; 13:43前半。
- I. 啓示録は「イエス・キリストの啓示」で満ちている書であり、彼は「永遠にわたって生きている」方です——1:1, 9-20; 参照、エゼキエル1:1-3。
1. 啓示録に明らかに示されている栄光のキリストは光の人です——17-18節。
 - a. 彼の顔は、太陽が力を帯びて輝くように輝いていて、彼は火の炎のような七つの目があり、彼の足は炉で精錬された輝く青銅のようです——啓1:14-16。
 - b. 最終的に、キリストは「もうひとりの御使い」、すなわち、神によって遣わされた特別な御使いとして戻って来て、全地は「彼の栄光で照らされ」ます——18:1。
 2. 諸召会の使者たちは輝く星であり、神聖な光を託された者たちであり、霊の新しさの中で主に仕えます。——1:20; 2:1; ローマ7:6。
 3. 勝利者の褒賞は明けの明星としてのキリストです——啓2:28。
 4. 七つの霊は御座の前で燃えている七つの火のともし火であり、イエスの証しである金の燭台の七つのともし火です——4:5; 1:11-12, 20; 参照、2:4-5, 7, 17; 3:20-21。
 5. 神の民は宇宙的な光を放つ輝く女です——12:1。
 6. 新エルサレムの光は小羊・ともし火としての贖うキリストの中で輝く神です——21:23; 22:1。
 7. 新エルサレムの都全体は拡散器であり、神聖な光を都の外の諸国民の上に拡散します——21:9-11; 23-24前半。
 8. 聖なる都の光は唯一の、永遠の、神聖な光です。その中で贖われた選びの民は生活し、動きます。都の中では神によって創造された天然の光や太陽や月を必要とせず、人によって造られた人工の光も必要としません——23, 25, 22前半。
- VI. キリストは神の家を思う熱心さが彼を食い尽くした方です——詩69:9前半：**
- A. 主は御父の家を思う熱心さによって駆り立てられて、すべての汚れを追い出しました。主が宮を清めた後、「弟子たちは、『あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす』と書かれているのを思い出した」——ヨハネ2:17。
 - B. 主は草からできた縄のむちをもって、両替人の金をぶちまけ、テーブルをひっくり返して宮を清め、彼らに言われました、「わたしの父の家を商売の家とするな」——14-16節。

- C. ときどき、主は物事を逆さまにひっくり返すことによってわたしたちの生活に介入して来られます。それは、神と彼の動きのための祈り以外のものによって満たされている非常に多くの事柄からわたしたちをきよめるためです——詩42:8. ヤコブ5:17. 参照、エゼキエル 1:15-21。
- D. キリストは神の宮、すなわち、神の家、キリストのからだとしての召会を建造しておられます。それはわたしたちを清め、わたしたちを祈りの家とし、わたしたちが命を解き放つ死と命を分与する復活を伴う十字架に付けられ、復活したキリストを経験することによります——13-22節, 12:24. ルカ12:49-50. 19:45-48. イザヤ56:7. 列王上8:48. ダニエル6:10. 使徒6:4。
- E. わたしたちは命を与える霊で満たされる必要があります。命を与える霊は神の家を建造する方であり、キリストのからだの実際であり、神の団体の宮としての召会を建造することを思うキリストの熱心さです。わたしたちの霊の中にあるこの燃える聖なる熱心さをもって（ローマ12:11. イザヤ4:4）、わたしたちは続く三つの項目を顧慮しなければなりません：
1. わたしたちは神によって得られなければなりません。神聖な光の輝きと神の現れはわたしたちを得ます——Ⅱコリント2:12-17. 4:6-7. エペソ3:1. 4:1. 6:20。
 2. わたしたちは神との交わりを持たなければなりません。わたしたちは命の増し加わりと命の実のために、命の交わりの中で、キリストを贖う方、輝く方、支配する方として経験し、彼を命の供給、また命の方法として享受する必要があります——ローマ4:12. 創12:1-3, 6-8. 13:3-4, 18. 17:1, 5. 18:2. ヤコブ2:23. Iヨハネ1:3. 啓21:23. Ⅱコリント4:4, 6. 啓22:1-2. 21:21後半。
 3. わたしたちは神によって支配されなければなりません。御子は彼の全生涯にわたって御父に服従されました。彼はわたしたちに彼の服従する命、すなわち命の霊の法則、服従の法則を与えられました。キリストで満たされることは服従で満たされることであり、命の中で支配することは、権威の下にある人であった最初の神・人の模範にしたがって、神聖な命の支配の下にいます——ピリピ2:5-11. エペソ5:18, 21. ローマ5:17, 21. 8:2. マタイ8:9。
- F. 神の家を思う熱心さがわたしたちを食い尽くすとは、わたしたちがエルサレム（召会）の内側にあるシオン（キリストのからだの実際としての勝利者）となるために、からだのための負担を持つことです：
1. 詩篇第131篇は聖徒がシオンへ上る時に賛美したものであって、それはエホバの御前でへのりくだった心と静かな魂に関するものです：
 - a. 特定の事柄はわたしたちにとってとても大きく、不思議なことです。わたしたちはこれらの事柄に深入りすべきではありません。わたしたちは内側で自分の魂を和らげ、静めるべきであり、主以外のあらゆるものから乳離れし、はぎ取られるべきです——1-2節。
 - b. わたしたちが詩篇の作者のように、へりくだり、和らげられ、静かになり、

乳離れするとき、神を待ち望むように他の人に助言することができます——3節。

2. 詩篇第132篇は聖徒がシオンへ上る時に賛美したものであって、油塗られた方であるキリストを予表するダビデを通しての、シオンにあるエホバの住まい、安息に関するものです：
 - a. 詩篇の作者は、キリストのすべての苦しみを予表するダビデのすべての苦しみを覚えてくださるようにならねばならぬ——1節。
 - b. 2節から5節において、わたしたちは神の家のためのダビデの願いを見ます。ダビデはエホバに起き上がっていただき、契約の箱と共にシオンにある彼の安息の場所に入っていたかかったのです（6-8節）。今日、この安息の場所は諸召会の中にいる勝利者たちです。
 - c. 13節から18節ではシオンに関して語っています。これは最高の召会生活、すなわち、シオンにいる勝利者たちの状態、神の山の最高峰についての絵です：
 - (1). 「**エホバはシオンを選び、それをご自分の住まいにしようと願われた**」——13節。
 - (2). 「これは永遠に**わたしの安息所である。わたしはそれを願ったゆえに、ここに住む。わたしはシオンの糧食を豊かに祝福し、その貧しい者たちをパンで満ち足らせ**」——14-15節。
 - (3). 「またその祭司たちに救いを着せる。その信実な者たちは**歓喜の響きわたる叫びをもって叫ぶ。わたしはそこにダビデの角を生えさせる。わたしの油塗られた者のために、わたしはともし火を備えた。わたしは彼の敵どもに恥を着せる。しかし彼の上には彼の冠が輝く**」16-18節。